授　業　概　要

科目名	授業の種類	授業担当者
こころとからだのしくみI	講義	田宮病院臨床心理室 金山聡子（実務経験者）

授業回数	時間数（単位数）	配当学年・時期	必修・選択
３０回	６０時間（４単位）	１学年・通年	必修科目

[授業の目的・ねらい]

介護を必要とする人の生活支援をするために、介護実践の根拠となる人間の心理、人体の構造や機能を理解する。

[授業終了時の達成課題（到達目標）]

１　人体の構造と機能を理解できる。

２　様々な疾患について基礎的な知識を身につける。

３　こころのしくみの理解ができる。

４　ケアを行うための考え方やかかわり方の基礎を身につける。

[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]

１　健康とは

<u>からだのしくみの理解</u>　＜担当　金山　聡子＞

２　からだのしくみと健康

３　細胞・組織・器官　身体各部の名称

４　脳、神経

５　呼吸器、循環器

６　消化器

７　骨、筋肉

８　感覚器

９　泌尿器

１０　生殖器、内分泌

１１　血液、体液、リンパ

１２　生命維持と恒常性

１３　心身の調和

１４　薬の知識

１５　試験

<u>こころのしくみの理解</u>　　＜担当　田宮病院臨床心理室＞

１６　脳のしくみ

１７　脳のしくみ

１８　認知・学習・記憶・適応のしくみ

１９　認知・学習・記憶・適応のしくみ

２０　高齢者の心理

２１　高齢者の心理

２２　高齢者への関わり方 ２３　高齢者への関わり方 ２４　障害をもつ人の心理と関わり方 ２５　障害をもつ人の心理と関わり方 ２６　ストレスのしくみ　セルフケア ２７　ストレスのしくみ　セルフケア ２８　危機介入　ケアする人のメンタルケア ２９　危機介入　ケアする人のメンタルケア ３０　試験	
[使用テキスト・参考文献] 最新　介護福祉士養成講座　１１ 「こころとからだのしくみ」第 2 版 中央法規出版	[単位認定の方法及び基準] 規程の 3 分の 2 以上の出席であり、各試験による成績が 60 点以上の者に単位を認定する。 **※金山担当の「からだのしくみ」について** **終講試験（筆記試験）80％＋事前学習課題の提出 5 ％＋主体的な授業参加姿勢 5 ％＋小テスト 10％の割合で合計100％の評価とする**

授業概要

科目名	授業の種類	授業担当者
こころとからだのしくみII	講義	専任教員・桑原　円香 ・永井　智恵子（実務経験者）

授業回数	時間数（単位数）	配当学年・時期	必修・選択
３０回	６０時間（４単位）	１学年　・　通年	必修科目

［授業の目的・ねらい］

介護技術の根拠となる人体の構造や機能及び介護サービスの提供における安全への留意点や心理的側面への配慮について理解する。

［授業全体の内容の概要］

介護の視点からのこころとからだのしくみについて講義形式で学ぶ。また、グループでのディスカッション、発表等も織り交ぜながらこころとからだのしくみについての理解を深める。

［授業終了時の達成課題（到達目標）］

介護の視点からのこころとからだのしくみ、ならびに生活過程を整えることの大切さを理解する。

［授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法］

コマ数

１　「健康」とは

２　人間の欲求の基本的理解

３　休息と睡眠に関連したこころとからだのしくみ　（休息・睡眠の意義）

４　（こころとからだのしくみ）

５　心身の機能低下が休息・睡眠に及ぼす影響と観察

６　移動に関連したこころとからだのしくみ　（移動の意義）　＜桑原　円香＞

７　（ボディメカニクス）

８　（基本動作と姿勢）

９　心身の機能低下が移動に及ぼす影響と観察

１０　身じたくに関連したこころとからだのしくみ　（身じたくの意義）

１１	（こころとからだのしくみ）
１２	（身だしなみを整える）
１３	心身の機能低下が身じたくに及ぼす影響と観察
１４	中間まとめ
１５	食事に関連したこころとからだのしくみ　（食事の意義）
１６	（こころとからだのしくみ）
１７	（食べるしくみ）
１８	心身の機能低下が食事に及ぼす影響と観察
１９	排泄（はいせつ）に関連したこころとからだのしくみ　（排泄の意義）
２０	（こころとからだのしくみ　排尿（はいにょう））
２１	（こころとからだのしくみ　排便（はいべん））
２２	心身の機能低下が排泄に及ぼす影響と観察
２３	入浴（にゅうよく）・清潔保持（せいけつほじ）に関連したこころとからだのしくみ　（入浴の意義）
２４	（こころとからだのしくみ）
２５	心身の機能低下が入浴・清潔保持に及ぼす影響と観察
２６	人生の最終段階（じんせいさいしゅうだんかい）のケアに関連したこころとからだのしくみ　＜永井　智恵子＞
２７	終末期（しゅうまつき）のケア
２８	「死（し）」に対するこころの理解
２９	終末期から「死」までのからだの変化と対応
３０	終講試験（解答・解説）

[使用テキスト・参考文献]	[単位認定の方法及び基準]
最新　介護福祉士養成講座　１１ 「こころとからだのしくみ」第２版 中央法規出版	規程の３分の２以上の出席であり、レポートおよび試験で 60 点以上の者に単位を認定する。

授　業　概　要

科目名	授業の種類	授業担当者
発達と老化の理解Ⅰ	講義	金山　聡子 （実務経験者）

授業回数	時間数（単位数）	配当学年・時期	必修・選択
15回	３０時間（２単位）	１学年　・　前期	必修科目

［授業の目的・ねらい］

人間の成長と発達の観点から人の一生について理解する。ライフサイクル各期における身体的・心理的・社会的特徴と発達を踏まえ、各段階に応じた生活支援の在り方を学ぶ。また、発達の観点から老化について理解する。

［授業終了時の達成課題（到達目標）］

１　人間の成長と発達について基礎的な知識を説明できる。

２　人間の発達段階と発達課題について説明できる。

３　老化の特徴と老年期の発達課題について説明できる。

［授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法］

１　発達と老化について学ぶ意義

２　ライフサイクルとライフイベント、人間の成長と発達の基礎知識　＜　＞

３　発達理論の基礎知識　～エリクソン、ピアジェ、バステル、ほか

４　発達段階各期の特徴①

５　発達段階各期の特徴②

６　発達段階各期の特徴③

７　発達段階各期の特徴的な疾病と日常生活への影響①

８　発達段階各期の特徴的な疾病と日常生活への影響②

９　老化に伴う変化と日常生活への影響①

１０　老化に伴う変化と日常生活への影響②

１１　老年期に生きる人の生活風景①

１２　老年期に生きる人の生活風景②

１３　老年期の人の日常生活への配慮、健康維持①

１４　老年期の人の日常生活への配慮、健康維持②

１５　終講試験

［使用テキスト・参考文献］	［単位認定の方法及び基準］
最新　介護福祉士養成講座　１２ 「発達と老化の理解」第２版　中央法規出版	・単位認定は規程の３分の２以上の出席であることを前提とし、満たない場合は終講試験の受験を認めない ・評価対象は①小テスト②終講試験、比重は①20％②80％とする

	・ 認定水準は①②合計 60 点以上とする

授　業　概　要

科目名	授業の種類	授業担当者
発達と老化の理解II	講義	金山　聡子 （実務経験者）

授業回数	時間数（単位数）	配当学年・時期	必修・選択
15回	３０時間（２単位）	１学年　・　後期	必修科目

[授業の目的・ねらい]

老化に伴う身体的・心理的・社会的な変化や高齢者に多くみられる疾病と生活への影響、健康の維持・増進を含めた生活支援について学ぶ。

[授業終了時の達成課題（到達目標）]

１　老化に伴う身体的・心理的・社会的機能の変化と健康について説明できる。
２　高齢者に多い症状・疾患と生活上の留意点について理解できる。
４　保健医療職との連携の必要性が理解できる。

[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]

１　老化に伴う生理機能の低下、老化に伴う身体・心理・社会機能の変化と生活への影響①
２　老化に伴う身体・心理・社会機能の変化と生活への影響②（GW）
３　老化に伴う身体・心理・社会機能の変化と生活への影響③（GW）
４　老化に伴う身体・心理・社会機能の変化と生活への影響④（GW）
５　老化に伴う身体・心理・社会機能の変化と生活への影響⑤（GW）
６　高齢者の健康
７　高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点①（GW）
８　高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点②（GW）
９　高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点③（GW）
１０　高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点④（GW）
１１　高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点⑤（GW）
１２　高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点⑥（GW）
１３　高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点のまとめ
１４　保健医療職との連携
１５　終講試験

[使用テキスト・参考文献]	[単位認定の方法及び基準]
最新　介護福祉士養成講座　１２ 「発達と老化の理解」第2版　中央法規出版	・単位認定は規程の3分の2以上の出席であることを前提とし、満たない場合は終講試験の受験を認めない ・評価対象は①小テスト②グループワークへの参加状況③終講試験、比重は①10%②10%③80%とする ・認定水準は①②③の合計が60点以上とする

授　業　概　要

科目名	授業の種類	授業担当者
認知症の理解Ⅰ	講義	会田　千草 （実務経験者）

授業回数	時間数（単位数）	配当学年・時期	必修・選択
１５回	３０時間（２単位）	１学年　通年	必修科目

［授業の目的・ねらい］

認知症に関する基礎的知識を習得する。認知症のある人の日常生活に対し介護福祉士がどのようにアプローチしていけばよいか、本人のみならず家族を含めた周囲の環境にも配慮した介護の視点を学ぶ。

［授業終了時の達成課題（到達目標）］

１．認知症の原因となる疾患と特徴的な症状について理解する。

２．認知症に伴うこころとからだの変化について理解し、生活支援を行う必要性がわかる。

［授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法］

コマ数

認知症の医学的・心理的側面の基礎的理解

１　認知症とは

２　脳のしくみ

３　認知症の原因疾患と症状

４　認知症の原因疾患と症状

５　中核症状の理解

６　BPSD の理解

７　認知症と間違えやすい症状

８　若年性認知症

９　認知症の検査と治療

１０　認知症の予防

１１　認知症の人の体験の理解

１２　認知症の人の生活支援

１３　認知症の人へのかかわりの基本

１４　認知症を取り巻く状況

１５　終講試験（解答・解説）

［使用テキスト・参考文献］	［単位認定の方法及び基準］
介護福祉士養成講座 13 「認知症の理解」第２版　中央法規出版	規程の３分の２以上の出席であり、試験で 60 点以上の者に単位を認定する。

授　業　概　要

科目名	授業の種類	授業担当者
障害の理解Ⅰ	講義	金山　聡子 （実務経験者）

授業回数	時間数（単位数）	配当学年・時期	必修・選択
15回	３０時間（２単位）	１学年　・　後期	必修科目

［授業の目的・ねらい］

障害のある人の心理や身体的・社会的側面に関する基礎的知識を習得する。また、障害の医学的から、障害による心身への影響を理解し、障害のある人への対応について学ぶ。

［授業終了時の達成課題（到達目標）］

１　障害のある人の基礎的知識を理解することができる。

２　障害のある人への必要な支援について考えることができる。

［授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法］

１　障害の基礎

２　障害者の心理的理解

３　肢体不自由（運動機能障害）のある人の基礎的知識と支援

４　視覚障害のある人の基礎的知識と支援

５　聴覚・言語障害、重複障害のある人の基礎的知識と支援

６　内部障害のある人の基礎的知識と支援①

７　内部障害のある人の基礎的知識と支援②

８　内部障害のある人の基礎的知識と支援③

９　高次脳機能障害のある人の基礎的知識と支援

１０　重症心身障害のある人の基礎的知識と支援

１１　知的障害のある人の基礎的知識と支援

１２　精神障害のある人の基礎的知識と支援

１３　発達障害のある人の基礎的知識と支援

１４　難病のある人の基礎的知識と支援

１５　終講試験

［使用テキスト・参考文献］

最新　介護福祉士養成講座　１４

「障害の理解」第２版　中央法規出版

［単位認定の方法及び基準］

・単位認定は規程の３分の２以上の出席であることを前提とし、満たない場合は終講試験の受験を認めない

・評価対象は①事前学習課題の作成・提出状況②終講試験、比重は①30％②70％とする

・認定水準は①②合計60点以上とする

授　業　概　要

科目名	授業の種類	授業担当者
認知症の理解II	講義	佐藤正幸・丸山欽央 （実務経験者）

授業回数	時間数（単位数）	配当学年・時期	必修・選択
１５回	３０時間（２単位）	２学年・通年	必修科目

［授業の目的・ねらい］

認知症の利用者個々の特性を踏まえたケアを提供するための知識や支援方法を学ぶ。家族、地域の力を活かした認知症ケアについて、家族支援のあり方、多職種連携・協働の在り方について学ぶ。

［授業終了時の達成課題（到達目標）］

１．BPSD に対するケアの方法を考えることができる。

２．認知症の人やその家族への支援や地域のサポート体制について説明できる。

［授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法］

コマ数

１　認知症ケアの歴史　　＜佐藤　正幸＞

２　認知症ケアの理念と倫理

認知症に伴う生活への影響と認知症ケア

３　認知症に伴う生活への影響

４　認知症の特性を踏まえたアセスメント

５　認知症の人への生活支援

６　認知症の人への生活支援

７　認知症の人への生活支援

８　認知症の人への生活支援

９　認知症の人への様々なアプローチ

１０　環境への配慮

１１　認知症の人の終末期の介護

１２　家族への支援　　＜丸山　欽央＞

１３　地域における連携と協働　（地域のサポート体制・チームアプローチ）

１４　認知症に関する制度・関係機関

１５　終講試験（解答・解説）

［使用テキスト・参考文献］

最新　介護福祉士養成講座 13

「認知症の理解」第２版　中央法規出版

［単位認定の方法及び基準］

規程の３分の２以上の出席であり、レポートおよび試験で 60 点以上の者に単位を認定する。

授　業　概　要

科目名	授業の種類	授業担当者
障害の理解II	講義	金山　聡子・井田　智子 （実務経験者）

授業回数	時間数（単位数）	配当学年・時期	必修・選択
15 回	３０時間（２単位）	２学年・通年	必修科目

[授業の目的・ねらい]

障害についての基礎的理解を深め、障害のある人の地域での生活を理解し、本人のみならず家族や地域を含めた周囲の環境にも配慮した介護の視点を学ぶ。

[授業終了時の達成課題（到達目標）]

１　障害の概念、障害者福祉の基本理念について基礎的なキーワードの意味を説明できる。

２　障害のある人に対する介護の視点について説明できる。

３　障害のある人を支える家族への支援について考えられる。

４　障害のある人の生活を地域で支えるための多職種連携・協働について理解できる。

[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]

コマ数

障害の基礎的理解　　＜金山　聡子＞

１　障害の概念

２　ICIDH(国際障害分類)から ICF（国際生活機能分類）への変遷

３　障害者福祉の基本理念①　（ノーマライゼーション）

４　障害者福祉の基本理念②　（リハビリテーション）

５　障害者福祉の基本理念③　（ソーシャルインクルージョン）

６　障害者福祉の基本理念④　（障害者権利条約）

７　障害者福祉に関連する制度①

８　障害者福祉に関連する制度②

障害のある人の生活と障害の特性に応じた支援

９　障害のある人への支援

１０　障害のある人への支援

１１　障害のある人への支援

１２　地域のサポート体制　　＜井田　智子＞

１３　家族への支援

１４　連携と協働

１５　終講試験

[使用テキスト・参考文献]	[単位認定の方法及び基準]
最新　介護福祉士養成講座　１４ 「障害の理解」第２版　中央法規出版	規程の３分の２以上の出席であり、レポートおよび試験で 60 点以上の者に単位を認定する。